

JICA モンゴル事務所ニュースレター 2016年1月号

トップニュース

無償「日本モンゴル教育病院建設計画」の施設建設契約が締結されました



日モ教育病院の完成イメージ

2015年12月22日に、モンゴル初の大学付属病院となる無償「日本モンゴル教育病院建設計画」(贈与上限額:79.85億円)の施設建設に係るコントラクター契約が、教育・文化・科学省、実施機関であるモンゴル国立医科大学、本邦建設業者との間で締結されました。同病院(104床、地上3階、地下1階建て、延床面積約16,505㎡)は、医師等の卒後研修の拠点となるだけでなく、非感染性疾患など優先度の高い三次医療サービスとウランバートル市内の二次医療サービスを提供する中核病院として機能することが期待されており、モンゴル国内外から高い注目を集めています。今後、2016年4月に着工し、2018年初旬頃の完工を予定しています。

政治・経済動向

開発政策計画法(Law on Development Policy Planning)が成立

2015年11月26日、国家大会議において開発政策計画法が成立しました。この法律は、これまで必ずしも整合が図られていなかった国・地方・自治体の開発政策について、PDCAサイクルの各段階の手続き、関係機関の役割を明確にして開発政策を安定的に継承・実行するための基本的な法的枠組みを定めたものです。具体的には、15~20年間の国の長期開発政策(「持続可能な長期開発ビジョン 2016-2030(案)」が審議中)を最上位に位置付け、それに整合するように、中期(政府アクションプランや公共投資計画(PIP)等)及び短期(年度予算等)の政策を国、地方レベルで策定するとしています。これに伴い、200を超える既存の開発政策は、この法律に基づいて内容や相互の整合性が精査・整理される方針です。また、2016年6月下旬に総選挙を控える中、各政党は長期開発政策に則ったマニフェストの作成が義務づけられたという点も注目されます。

低金利住宅ローンが再開

民法及び不動産担保法の一部条項が憲法に抵触するとの憲法裁判所の判断を受け、低金利(8%)住宅ローンの新規融資が12月から停止していましたが、1月18日に国家大会議において2法の修正法案が可決されました。これにあわせて、建設・都市開発省は、金利引き下げ(8%→5%)、頭金割合引き下げ(30%→20%)、融資対象床面積引き上げ(80㎡→100㎡)を実施すると発表。これが実現すれば借り手にとって、より融資を受け易くなる条件となりますが、ウランバートルではアパートの供給過多が指摘され、低金利住宅ローンの安定的な運用に一部で懸念する声が挙がる中、同住宅ローンプログラムの実施主体であるモンゴル銀行がこれに応じるか注視が必要です。

その他の主要イベント、動向等

- ・1月14日 第3回日モ外交・防衛・安全保障当局間協議(於:東京)
- ・1月20~23日 エルベグドルジ大統領 世界経済フォーラム(ダボス会議)出席
- ・1月24~26日 オルバン ハンガリー国首相モンゴル公式訪問

プロジェクトの動き

「投資環境・促進にかかる情報収集・確認調査」でモンゴル民間企業関係者向けワークショップを開催



多くの人が詰めかけたワークショップの様子

現在、モンゴルにおける投資環境等の現状に関する情報収集・分析と、モンゴルにおける民間セクター支援の方向性を検討するため、「投資環境・促進にかかる情報収集・確認調査」を実施中です。その調査の一環で、1月15日にモンゴル企業からの情報収集を目的として、日本センターでワークショップを開催しました。2015年2月に日モ経済連携協定(EPA)の署名がなされて以降、モンゴルの民間企業の日本への関心が高まっており、当日は民間企業関係者等約70名が参加して日本でのビジネス展開可能性等について活発な意見交換が行われました。

モンゴルがIAA Globalのメンバー国として認可、内部監査能力向上技プロが貢献



IAA Global 本部における研修様子

技プロ「内部監査能力向上支援プロジェクト(フェーズ2)」では、2015年11月23~26日にかけて第3国研修を米国で実施しました。研修には、C/P機関である大蔵省予算管理・リスクマネジメント局長ら6名が参加し、国際内部監査協会(IAA Global)本部を訪問して内部監査人資格制度について講義を受けるとともに、モンゴルの内部監査制度について意見交換を行いました。その後押しもあって、翌12月にモンゴルはIAA Globalのメンバー国として認可されました。これにより、国際公認内部監査人の資格付与プログラムの対象国となる等、モンゴルの内部監査制度の強化が期待されます。

草の根技術協力「ウランバートル市植林技術支援事業」成果発表会が開催されました



成果発表会で成果品のテキストを
モ側実施機関に手渡しました

草の根技術協力「ウランバートル市植林技術支援事業」では、ウランバートル市東部の国立庭園公園の植林サイトを中心に、モンゴルでの技術指導(受講者約 270 名)や本邦研修(参加者 12 名)等を通じて、モンゴルの気候条件に適した樹種の選定と挿木や接木を取り入れた植林を行える技術者が育成されてきました。2016 年 3 月の事業終了前に行われた事業成果発表会では、清水武則在モンゴル日本国大使、日本側実施機関「若いウランバートル技術支援実行委員会」喜多龍一名誉会長(北海道議会議員)出席のもと、本邦研修参加者 2 名が研修成果を発表し、公園デザインや植林のための土づくり等、日本で学んだ知識を今後の業務に活かしたいと抱負を語りました。

「地域総合開発にかかる情報収集・確認調査」を実施中です



地方部では現在も多くの遊牧民が生活している(モンゴル中部のアルハンガイ県の一風景)

モンゴルの安定的・持続的な発展に向けて地域総合開発の方向性を検討するため、2015 年 2 月から「地域総合開発にかかる情報収集・確認調査」を実施しています。モンゴル側の政府・民間セクター等関係者の幅広い協力を得ながら、観光業、農牧業、鉱業、運輸交通等の各分野の情報収集・分析を進めるとともに、ウランバートル、北海道、東京、大阪でセミナーを開催し、成長産業や回廊型開発可能性等について議論を重ねてきました。現在、最終報告書(案)の取りまとめ作業を行っていますが、モンゴル国会議員団や大蔵省から本調査の成果を政策に反映したいとのコメントが寄せられる等、モンゴル側の期待の高さが伺えます。

技プロ「児童中心型教育支援プロジェクト」が始動



塚越専門家(右)と教育・文化・科学省局長(中央)、担当官(左)

モンゴルでは、旧来の詰め込み型の暗記教育からの脱却を図るために、子どもの多様性を尊重した「子ども一人ひとりの発達」を促すための国家プログラムを 2013 年 8 月に策定し、初等・中等教育の質の改善を図っていますが、教育改革を担う専門機関の教員及び研究者の人材・専門能力不足に直面しています。この課題に対処すべく、JICA は 2015 年 1 月にモンゴル教育・文化・科学省を C/P 機関として、技プロ「児童中心型教育支援プロジェクト」を実施することに合意し、1 月 19 日に塚越長期専門家が着任しました。本プロジェクトでは、今後、小・中学校の教育カリキュラムや教科書、授業及び学力評価カイゼンに関する中核人材の能力強化に向けて取り組んでいきます。

その他の事業の動き等

・世界 HOT アングル記事:森川理咲子職員(東・中央アジア部東アジア課)

<http://www2.jica.go.jp/hotangle/asia/mongolia/001367.html>

・1 月 19 日に塚越長期専門家(児童中心型教育支援プロジェクト)が着任しました。

ボランティア事業の動き

ボランティア活動紹介 (モンゴルの教育分野で活動するボランティア)



子どもたちの話し合い活動を担任と見守る
大石 JV(右端)

モンゴル国では 2014 年 9 月から新学習指導要領が施行され、「子ども中心の教育」が始まりました。大石陽介隊員(H26 年度 1 次隊/小学校教育)は 2014 年 8 月にダルハンのオド統合学校に赴任し、チームティーチングの普及や同国では余力が入れられていなかった「学級経営」や「学級活動」を活発化させるための教員向けセミナーの開催等、積極的に活動を展開してきました。現在ではダルハン・オール県の研究授業も任せられ、各担任と「子供たちが主体でできる活動」の実施を推進し、学校職員や教育関係者から高い評価を得ています。現在、モンゴルの教育分野ボランティアは 18 名おり、モンゴル人教師と日々共に考え、授業改善等を通じて教育の質の向上に向けて活動しています。

その他のボランティア情報

・「JICA ボランティア世界日記」に吉田量子 JOCV(H25-4 次隊/幼児教育、配属先:Sujatashand)の記事が投稿されました。

http://world-diary.jica.go.jp/r-yoshida/life/post_21.php

http://world-diary.jica.go.jp/r-yoshida/life/2_1.php

・1 月 6 日に JOCV H27-3 次隊 8 名が着任しました。

内田有香(バレーボール/ボルガン県体育・スポーツ局)、鈴木妙子(看護師/フズグル県総合病院)、高橋冴(音楽/ゴビアルタイ県第1学校)、藤川理恵(看護師/ダルハンオール県総合病院)、山崎香葉子(青少年活動/トゥブ県子供・家族開発課)、山下理恵子(バレーボール/ゴビアルタイ県体育・スポーツ局)、山本紘香(保健師/バガノール地区保健センター)、米澤祐佳(助産師/ボルガン県保健局)



平成 27 年度 3 次隊の 8 名



帰国研修員同窓会による JICA 事業紹介テレビ番組が毎月放映されています



インタビューを受ける UB 市大気質庁長官

帰国研修員同窓会では、モンゴルの一般市民向けに JICA の協力内容を紹介するテレビ番組を作成し、2015 年 8 月から毎月地元 TV 局で放映されています。これまで、JICA 紹介、同窓会紹介、国税、防災、中小企業支援等での活動を取り上げてきましたが、2016 年 1 月放送分(動画はこちら)では技プロ「大気汚染対策能力強化プロジェクト」を紹介し、同窓会メンバーのウランバートル市大気質庁長官や国家気象・環境モニタリング庁職員、前田 JICA 専門家等がウランバートルの大気汚染の現状やプロジェクト進捗状況について説明しました(大気汚染状況等については下記新コラムもあわせてご覧ください)。帰国研修員同窓会によるテレビ番組はモンゴル国内での JICA 事業の認知度向上に貢献しています。

コラム ～事務所ナショナルスタッフによるモンゴルの文化・生活事情紹介～

ウランバートル市民の間で最近の休日の楽しみ方といえば「ハイキング」。子供の頃は空気がきれいで、海外に行っていた人にとっては故郷の空気が恋しかった等という話を良く聞いた覚えがありますが、ここ 10 年位で大気汚染が進み、UB 市民はとにかく空気のきれいなところに行きたい！と思うようになったからです。市中心部からたった 4 キロ離れたボグド山周辺に行けば、四季の風景を楽しめ、静かな森の中で小川の音を聞きながら癒され安らぐひと時を感じる事が出来ます。赤ちゃんと一緒にゆっくり散歩するお母さん、滑り台で遊ぶ子供たち、頂上に登るグループや家族連れ、カップル等、皆思い思いに自然を楽しんでいます。一度行けば癖になるハイキング。1 月の真冬にはそり遊びを楽しむ人もいますよ！(ホラン所員)



氷点下 20-30℃でもハイキングを楽しむ人が大勢います！

新コラム ～ウランバートルの大気汚染(東京や北京との比較)～

ウランバートル(以下 UB)の大気汚染は激しいですが、北京は更に激しいみたいですね？と質問を受けることがあります。様々な視点で比較すべきですが、PM₁₀ の年平均濃度を北京、東京と比較してみると、UB 市が 106~266 μg/m³ (測定局別年平均濃度)であるのに対して、北京市は 87.1~136.9 μg/m³ (2014 年区別年平均濃度)、東京は 16~24 μg/m³ (2014 年 SPM (浮遊粒子状物質) 測定局別年平均濃度)でした。このデータからは、3 都市の中で UB 市が最も汚染されていると言えます。

UB 市及び首相府のウェブサイトでは、技プロ「UB 市大気汚染対策能力強化プロジェクト・フェーズ 2」の支援により UB 市内の大気汚染状況を公表しています (URL : <http://www.air.ub.gov.mn/>、<http://www.agaar.mn/>)。

UB で生活する方の健康管理の点では、大気汚染の地域差や時間変化を知られば少しは高濃度大気汚染を避けられるかもしれません。次号では、これらのサイトに掲載されている情報の読み方について解説予定です。(UB 市大気汚染対策能力強化プロジェクト・フェーズ 2 広報担当 前田)



スモッグに覆われる UB 市 (ボグド山ハイキングコースにて 1 月に撮影。モンゴルハイキングクラブ提供)



独立行政法人 国際協力機構 モンゴル事務所

Bodi Tower 7th Floor, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar, Mongolia

(Central P.O.Box 682, Ulaanbaatar 211213, Mongolia)

Tel:+976-325939, 311329 Fax:+976-310845 E-mail: mg_oso_rep@jica.go.jp